



第10回全日本学生落語選手権「策伝大賞」で文化会落語大学の今井智子さんが大賞を受賞

2月23日・24日に岐阜県長良川国際会議場で開催された、第10回全日本学生落語選手権「策伝大賞」で、全国55大学・大学院から出場した学生落語家280人の中から、関西大学文化会落語大学の今井智子さん(社4)が、大賞を受賞した。女性の大賞受賞は大会史上初の快挙で、関西大学からの大賞受賞者は通算で4人目となった。



▲大賞受賞の今井智子さん

今井さんは「花の家なごみ」の高座名で、上方落語の「堪忍袋」を熱演。冒頭の夫婦げんかの場面から迫力満点に演じ、千人あまりの観客を魅了した。今井さんが初めて落語を聞いたのは大学1年次生の時。極度のあがり症だったが、高座にあがるうちに改善し、日本の座を獲得した。受賞の喜びをかみしめながら、「後輩の女子部員が後に続いてくれたらうれしいです」と語った。

道頓堀商店会との連携協力事業を開催

関西大学と大阪・道頓堀商店会は、教育・文化・街の活性化などの分野で双方の発展と充実にご寄与し、積極的に連携することを目的に、「連携協力に関する協定書」を締結。1月16日、千里山キャンパスの100周年記念会館において、今井徹道頓堀商店会会長、楠見晴重学長が出席し調印式を行った。

調印式に引き続き、CGによる町並み復元映像「道頓堀五座の風景」を上映。第2弾として予定されているCG「道頓堀芝居小屋の復元」の基礎となる「大阪の劇場大工中村儀右衛門資料」の一部もメディアに公開した。この資料は2012年に、関西大学大阪都市遺産研究センターが入手した。

1月29日には連携協力事業の一環として、大阪都市遺産研究センターと道頓堀商店会の共催で道頓堀連続フォーラム第1回「芝居町道頓堀の景観復元をめざして」を開催した。



Copyright © 2011 Research Center for Cityscape and Contemporary Architecture, Kansai University
 ▲CG「道頓堀五座の風景」より

「関西大学うめきたラボラトリ」が参画する「うめきた」ナレッジキャピタルがオープン



▲左から2つ目が「関西大学うめきたラボラトリ」が開設されたグランフロント大阪のタワーC(写真提供：一般財団法人ナレッジキャピタル)

4月26日に街開きを迎えたJR大阪駅北側の再開発地区、うめきた・グランフロント大阪。その中核施設であるナレッジキャピタルに産学官連携における研究の拠点「関西大学うめきたラボラトリ」を開設した。

関西大学うめきたラボラトリが開設されたのは、「感性」と「技術」の融合により、「新たな価値」を創出する総合施設であるナレッジキャピタルの中でも、産学官連携プロジェクトに参画する企業や研究機関、大学など、人材・知財・情報の集積拠点となるオフィススペース「ナレッジオフィス」。

本学はうめきたに研究拠点を置くことにより、総合大学としての多様で豊富なコンテンツと高度な研究シーズを活用し、地元大阪・関西に根差した研究活動の推進、多様な社会ニーズに対する異分野を融合したイノベーションの創出を目指していく。

高槻ミュージックキャンパスがコージェネ大賞を受賞

一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センターが開催する平成24年度コージェネ大賞で、本学の「『社会貢献型都市キャンパス』における災害対応コージェネレーションシステム～



▲高槻ミュージックキャンパス

関西大学高槻ミュージックキャンパスにおける地域防災拠点としての取り組み～」が、民生用部門で理事長賞を受賞した。

コージェネ大賞は、新規・先導性、新規技術、省エネルギー性などに優れたコージェネレーションシステム(熱源より電力と熱を生産し供給するシステム)を表彰するもの。

高槻ミュージックキャンパスは「社会貢献型都市キャンパス」を目指し、多くの施設を地域開放するとともに災害時には防災拠点となるよう避難所機能を備えることを計画し、関西の大学施設として初めて非常用発電機を兼用するコージェネレーションシステムを採用している。今回の受賞は、省エネ性・環境貢献性だけでなく、防災拠点として役立つシステムであることが高く評価された。